

| 推薦する取り組み            | 園館名     |
|---------------------|---------|
| マダガスカルにいるような行動を目指して | 恩賜上野動物園 |

## 推薦理由

「アイアイのすむ森」エリアは全体に動物の豊かな暮らしを考慮した取組がなされています。その中のクロシロエリマキキツネザルでの取組みについてです。

給餌の方法に関して野生でやっているような後肢でぶら下がって食べる姿勢となるように工夫をしている。立って届かない高さかつ後肢でぶら下がって届く位置に餌台を設け、その上にぶら下がれる枝を設置し、後肢でぶら下がるとちょうど餌に届く仕掛けになっている。同様な仕掛けでぶらぶら揺れる所に枝葉を入れ、ぶら下がって食べたりしている。

最初は後肢でぶら下がって食べられなかった個体が食べられるようになり、体格が良くなったように感じます。

給餌の取り組みとしてクラッシュアイス用製氷皿に水分補給のためのジュレを入れ、舌をよく使わせるようにし、唾液の分泌による口腔内の健康と消化を助ける工夫もある。

健康管理という面でも後肢でぶら下がる姿勢が保てることでエコー等の検査が出来ることにもつながっている。

室内、屋外放飼場とも床はコンクリートむき出しではなく、木組みも本来の行動を引き出せるように組まれている。屋外放飼場は植栽がたくさんあるが、植栽以外にも枝がたくさんあり、あたかも植えてあるように見え、そこを活発に動く姿も見られる。植栽を食べている様子もあり、自分たちで選択する豊かな生活があると思います。

使われている枝もマダガスカルに多く見られる木肌に近いものを取り入れマダガスカルに近づけるような取組みもあります。

他にも様々なフィーダー、餌の内容など豊かな生活のための取組みがあります。

「アイアイのすむ森」にいるクロキツネザル、ワオキツネザル、アイアイにも様々な取組みがされています。





## 推薦する取り組み

科学する飼育・進化するランドスケープ

## 園館名

恩賜上野動物園

## 推薦理由

生息域に似た環境を作っても「見た目」ばかりに拘り過ぎて、その種の持つ能力を無視した空間になってしまえば、いくら「映え」るものであっても本末転倒になってしまう。

恩賜上野動物園アイアイのすむ森エリアでは給餌目的以外にも多種多様な植物を用い、動物たちの動線にも細やかな配慮をされた渡り木や目隠しにも使用しているほか、廃材などを再利用した動物たちの休憩場所や体幹が鍛えられる遊具・フィーダーを編み出し、給餌内容も将来まで考慮された上で、日々、変化を付けて提供されている。

種ごとの生態のみならず、個体の個性や健康状態なども観察とデータ解析を続けながら常にその時々合った創意工夫が凝らされているので、訪問するたびに発見があり、飽くことなく学びながら観察できるエリアになっている。



Entry No.

12-2

